

## 7 目標設定シートの到達度

(1) 目標設定シートの成果目標の達成率

目標設定シートにおける評価項目は、以下の14項目である。

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)		H28	H29	H30	R1	目標値 H32	達成率 R1
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数	30	40	127	155	60	<b>258%</b>
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数	54	58	54	143	60	<b>238%</b>
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合	64%	59%	47%	56%	80%	<u>70%</u>
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞数	16	23	20	24	20	<b>120%</b>
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1~B2レベルの生徒の割合	15%	35%	26%	44%	30%	<b>147%</b>

2. グローバルリーダーを育成する高校としての活動指標 (アウトプット)		H28	H29	H30	R1	目標値 (R2)	達成率 R1
a	課題研究に関する国外の研修参加者数	49	210	194	200	200	<b>100%</b>
b	課題研究に関する国内の研修参加者数	160	319	310	303	320	95%
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校の数	3	4	5	6	6	<b>100%</b>
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ人数 (人数×回数)	200	220	209	168	270	<u>62%</u>
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ人数 (人数×回数)	150	160	393	350	100	<b>350%</b>
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数	26	30	131	102	30	<b>340%</b>
g	帰国・外国人生徒の受け入れ者数 (留学生も含む。)	16	13	132	10	20	50%
h	先進校としての研究発表回数	5	6	20	11	5	<b>220%</b>
i	外国語によるホームページの整備状況	○	○	○	○	○	

表1 目標設定シートより

## (2) 成果

- (ア) 9項目が目標値の100%をクリアしている(表1の達成率の数値:太字・網掛け)。
- (イ) 1項目が目標値の8割以上100%未満である。
- (ウ) 2項目が目標値の6割以上8割未満である(同:下線)

目標設定シートにおけるSGH4年目のアウトカム及びアウトプットは、目標に向かって順調に推移している。達成率の高い項目として、1a、1b、1e、2e、2f、2hがあげられるが、昨年度に続いて1aの「自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数」が伸びを見せている。これは1年生から地域課題研究を行うことが社会貢献活動に大いにつながっていることがあげられる。また、昨年10月に佐野市を含む近隣の市町村が台風被害にあったため、ボランティアに自主的に参加する生徒が見られたことも要因の1つである。さらに、1bの「自主的に留学又は海外研修に行く生徒数」が大きく伸びているが、これは高校2年生の台湾グローバル研修が良い影響を与えていると思われる。台湾グローバル研修では、高校2年生全員が高雄女子高級中學で英語のプレゼンを行い、現地の生徒と英語での交流を行った。これが彼らに自信を持たせ海外に目を向けさせた原因の1つと考えられる。また、1eの「卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1~B2レベルの生徒の割合」は過去4年間で英検とGTECによるCEFRのB1~B2レベルの生徒数が最大となった。グローバルな視点からプレゼンをしたり、ディベートするなどのスピーキングの力を含む総合的な英語力がついてきた証拠である。

## (3) 課題

充実したSGH活動が4年間過ぎ、多くの評価項目が良い達成率を得ている一方で、依然と達成率が伸びない項目や、昨年度の項目と比較して減少した項目もある。まず、1cの「将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合」は目標値を80%としたが、ここ4年間ほぼ同じような割合となっている。今年度は56%であるが、この割合がむしろ妥当だと言えるのではないか。地方の1高校で6割近い生徒が留学を考えたり、国際的に活躍したいと考えているので、目標値自体が高い設定だったと言えるのではないか。また、1dの「課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ人数(人数×回数)」が昨年度と比較して減少しているが、これは高校1年生の「留学生指導」が台風のために中止になったことが原因の1つである。高1にとっては課題研究の時間も減ってしまい、大きな痛手となった。さらに、2gの「帰国・外国人生徒の受け入れ者数(留学生も含む。)」では昨年度と比較して大きく減少してしまったが、これは校外からの本校への申し込みが減ってしまったことがあげられる。これを目標値にするには、管理機関やAFSなどの外部団体との連携をさらにはかっていく必要がある。

概しては、ほとんどの項目が目標値を上回り、本校のSGH活動が効果的に行われていると言えるが、最後の1年間のSGH活動を、PDCAを実践しながらさらに充実したものにしていきたい。